

中学部 国語科 学習指導案

日 時：平成〇〇年〇月〇日（〇）〇校時

場 所：中学部〇年〇組教室指導者：

〇〇〇〇

単元名 平仮名を覚えよう 「文字カードを組み合わせて、ものの名前を答えよう」

1 単元の目標

- (1) 平仮名（清音）の音と文字を一致させて覚えることができる。
- (2) 絵カードを見て、平仮名（清音）の文字カードを組み合わせてものの名前を表すことができる。

3 生徒と単元

(1) 生徒について

対象生徒は〇年男子で、国語は個別で行っている。言葉として発音することが困難なため、発声、表情、サインや身振り、指さしを組み合わせでコミュニケーションを図っている。また、実物や写真が用意されている場合、自分から手に取って選び、意思表示することができる。聞くことに関しては、これまでの学習を通して傾聴態度が養われ、話の内容に関心をもって聞くことができるようになってきた。聞く学習では、簡単な物語や説明を聞き、内容に合う答えを選択肢から選ぶことができるようになった。書字については、上肢や指の細かい運動の制御は難しいため、字形は整わない。プリントに記名することを目標にした書く課題では、3センチ程度のます目に氏名や日付、天気について、一部漢字を用いて書くことができる。

平仮名の学習では、これまでの学習で、音の読み上げで文字を想起し、五十音表から文字を探せるようになった文字が増えている。さらに、「あ」と「め」や「に」と「こ」など、字形が似ている文字についても、音で弁別することで五十音表から間違えずに選べるようになってきた。絵本を見ることも好きで、指導者に読んでほしいと伝え、絵を楽しみながら一緒に読むと、分かち書きされた文章を追っている。

(2) 単元について

本単元は、ものの名前を音節に分解し、音と対応する文字を選んで組み合わせることが主なねらいである。本単元は、まず、問題文となる絵カードの絵と文字を見て、3文字程度に絞った選択肢から必要な文字を選ぶというスモールステップからはじめている。さらに、絵だけを見て音を想起させ、音節に分解して文字を選ぶ、最終的には音を聞いて必要な文字を選べるような構成にした。文字を見せ、同じ文字を選ぶマッチングの段階から、自分で音節を区切り、指導者が読み上げた音と対応する文字を選ぶ段階まで、課題をステップアップさせ、学習を積み重ねることで、平仮名を覚えることができるのではないかと考え、本単元を設定した。

文字を習得し、何が書かれているのかが分かることは、本生徒の知的欲求を高め、受容と表出の両面で本生徒の言語活動を活発にすることにつながると考え、本単元で音と文字の一致を中心に平仮名を指導していきたいと考えた。

(3) 指導にあたって

- ・覚えてほしい言葉は文字だけでなく、読み方、身振りやサインなどと合わせて指導する。聞いた言葉を動作化するように求め、表現できているかどうか確認しながら進めることにより定着を図る。
- ・学習意欲を高め、持続させられるように、聞く、読む、表す（伝える・書く）活動で授業を構成し、本生徒が教師役を担当する場面や、指導者と本生徒で競えるようなゲーム性を取り入れる。

4 指導計画

総時数 115 時間（前期 53 時間 後期 62 時間） 本時 115 分の 68 時（後期 15 時）

	単元名	主な学習活動	時数
話す こと・ 聞く こと	説明文・物語文を聞いて内容をつかもう 教材：「つばさくんの日記」「どうぶつの話①～⑧」「つばさくんのロケット」「あかいぼうし」「かいものの話」他	・ 100 字程度の文章を聞き、内容をつかむ。 ・ 話の中心や大事なこと、話の順序に気を付けて聞く。 ・ 質問や選択肢を聞き取り、話の内容に合う答えを選ぶ。	前期 10 後期 10
	たくさん話そう題材：避難訓練、調理学習、校外学習などの学習活動	・ 身近な人やもの、名前、場所、動作語のサインを覚える。身近な話題について「誰が、どうした」「どこで、何をする」などの文をサインや身振りで表現する。	前期 8 後 期 10
書く こと	文字を書こう教材：氏名、日付、天気、新しく覚えたい言葉	・ 力をコントロールしやすい姿勢をとれるよう、気を付けて書く。 ・ 字形、はらいの方向、止め、はねに気を付けて正しく書く。 ・ 日付、天気、氏名をます目におさまるように書く。	前期 10 後期 10
読む こと	平仮名を覚えよう 教材：「すごろくに挑戦」「ゲームのてるい屋を開こう」「平仮名を覚えよう」「名前ゲームをしよう」	・ 絵を見て、ものの名前を覚える。 ・ 絵を見て、それが何かを考え、音節分解する。 ・ 絵を見て、文字を文字カードから探し、正しい順序で組み合わせる。音と対応する文字を五十音表から探し、正しい順序で指さし、単語を作る。 ・ 読み上げられた単語を聞いて、対応する文字を正しい順序で指さす。 ・ 学級や学年の友達、教師の名前と顔を覚え、文字と顔写真を対応させる。	前期 16 後期 16 本 時 1 1 5 分 の 6 8
	本を読もう題材：「五味太郎の言葉図鑑 3 ようすをあらわすことば」他	・ 登場人物の行動や場面の様子について想像を広げながら絵本を読む。 ・ 絵本の内容と自分の経験とを結び付けたり、好きな場面を探したりして楽しみながら読む。	前期 9 後 期 10
	漢字を読もう教材：「時間割の漢字のかかるたをしよう」	・ 漢字を見て、音と文字を対応させて覚え、平仮名で書かれたカードと対応させる。（例：「こくご」→「国語」） ・ 曜日、日付を漢字で書く。	後期 6

5 本時の実際

(1) 単元における実態

○得意な部分、できるようになってきた部分 △学習中の部分、指導する部分

【学習のやり方や流れの理解、意思表示の仕方について】

○課題のやり方は分かる。自分が教師役になり、指導者と交互に問題を出し合うことができる。

○文字を並べられない場合は頭をかかえる仕草や、あごに手を当てて考える仕草で「分からない」と教える。

△細かい動きを伴う課題（平仮名の積み木を選んで並べる、3 cm以下のます目や、ポスター用に大きく書く等）は苦手である。午後の授業で眠気が強い場合は、取り組むが、終えるまでの時間がかかる。

△パソコン、キーボードを使った学習では、キーボードの字が小さく、打ちたい文字を探すことが難しい。

【平仮名の学習の理解について】

△文字を隠した場合、文字候補から必要な文字を選択することはまだ不十分。＜本時の学習③＞

○文字を見て、五十音表から同じ文字を探し、指さしすることができる。

○音を読み上げると、ものの名前を想起し、文字候補から選択できる言葉が増えている。

○音を読み上げたり、「おにの、お」などの手がかりを示したりすることで、必要な文字を二者択一できるようになった。現在は3枚から5枚程度の文字候補の中から探そうとするようになってきている。

(2) 本時の目標

絵カードを見て、3～5字程度の文字候補から必要な文字を選び、正しい順序に並べて単語を作ることができる。

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点・支援	準備物
3	1 学習の流れを知り、本時の学習課題の目あてをつかむ。 「あいうえお（五十音）にたくさんごうかくしよう」	・サインと文字、音声を合わせて覚えられるように、場面に応じて必要なサインを教える。また、一緒に表すよう指示したり、模倣を促したりして定着を図る。 ・学習内容が分かるよう、課題に登場するものを板書とイラストで示す。	・ホワイトボード用マーカー ・マグネット
7	2 書く課題に取り組む。 「日付を書こう」課題① 日付、天気、名前を書く。新しく覚える言葉（本時：〇〇）を視写する。	・課題①では、漢字のはらいの方向が分かりやすいように、「右」「左」を確かめてから書くよう指示する。はらいの方向を混同している場合は板書で拡大して示し、はらいに注目を促す。 ・腕や指先の力を調整し、筆圧を保ちやすい姿勢で書けるように、すべり止めマットを敷く。また、書くときの姿勢に気を付けられるように、左手の位置と、足を車いすの板の上に置くことを指示する。	・課題①プリント ・バインダー・サインペン・本生徒用テーブル ・滑り止めマット
8	3 聞いて答える課題に取り組む 「よく聞いて答えよう」課題② 文章を聞いて内容をつかみ、内容に合う答えを4者択一する。	・課題②では、大事な事柄に注意して聞くことができるよう、質問の内容を先に読み上げてから、本文を読む。	・課題②プリント
15	4 平仮名の学習に取り組む。 「カードを見て文字を選ぼう」課題③ 絵カードを見て文字カードを選び、単語を作る。	・課題③では、絵カードの単語がいくつかの文字から成り立つか想起できるよう、はじめに「ん」の音で音節の数を聞かせる（「みかん」→「ん・ん・ん」）。	・平仮名絵カード（表：絵と単語、裏：清音一文字） ・チェック用五十音表紙 ・文字カード
9	5 平仮名や漢字のまとまりで名前を覚える課題に取り組む。 課題④ 「名前ゲーム」をする。ふせた顔写真カードを1枚ずつ交互にめくり、名前表から対応する名前と点数を探す。計3枚選ぶ。 ※名前と顔を覚えてほしい人物は、5点の設定にする。	・集中力が低下した場合は、本生徒に問題を出す役割を与え、やりとりを楽しみながら再び課題に取り組めるようにする。 ・文字を手がかりに得点を探せるよう名前の頭文字を顔写真カードに書いておく（カルタのようにする）。	・生徒用五十音表 ・顔写真カード
3	6 学習をふりかえり、自分のできるようになったことをつかむ。	・次時への学習意欲を高め、覚えた文字を見て分かるようにするため、課題③で合格した文字は50音表に丸を付けて示す。	

(4) 評価

<生徒>

- ・文字並べや名前と得点を対応させる学習に意欲をもって取り組むことができたか。
- ・文字を見て分かる単語や、音と対応させることができる文字を増やすことができたか。

<指導者>

- ・生徒が自ら意思を伝えたり、文字を探したりする主体的な姿を引き出すことができたか。

- ・書かれてあることが分かる楽しさを感じられるような課題、教具・題材の選定、提示ができていたか。文字の習得をコミュニケーション能力や意欲の高まりにつなげることができたか。中
学部 国語○グループ 国語 学習指導案 資料

【課題①～④のやり方、流れ】

<課題1>「日付を書こう」

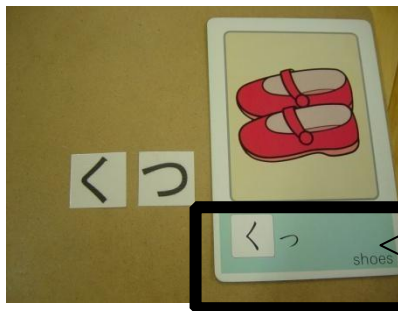
- 1 日付、曜日、天気、氏名、新しく覚えたい言葉の順に書く。
- 2 書き終えたら、サインや身振りによる表し方を示し、指導者と一緒に表現する。
- 3 筆順、止め、はらいなどに誤りがあれば、正しい書き方を指導する。

<課題2>「よく聞いて答えよう」

- 1 何が問われるか、質問を指導者が読み上げ、生徒は聞く。
- 2 本文を指導者が読み上げる。2回読み上げる。
- 3 質問に対応する答えを考え、選択肢から選ぶ。身振り、サインで答えたり、読み上げられた選択肢を指さしたりする方法で答える。

<課題3>「カードを見て文字を選ぼう」

- 1 文字の部分隠した絵カードを見せる。
- 2 「これは、何ですか。」とものの名前を問い、想起するのを待つ。
- 3 想起している様子を見て、音節を分けて「ん」で聞かせる。(3分節→「ん・ん・ん」)
- 4 文字候補のカードを提示する。3枚から5枚程度提示し、順番に並べるよう指示する。
- 5 分からない文字、想起できなかった文字は、五十音表を使って一緒に文字を指さし、確かめる。



答えの文字部分は、最初は隠す。正解したら、見せる。想起できなかったら、少しずつ見せる。

- 6 5枚取り組んだ後、生徒に問題を出す役割を代わり、理解度確かめる。

<課題4>「名前ゲームをしよう」

- 1 ゲームに登場してほしい人物（教師、生徒）を選ぶ。生徒に「今日、誰のカード選ぶ？」と質問し、数枚選ぶよう指示する。
 - 2 「今日のスペシャル」を何人か選び、得点を5点とする。また、その他の人の得点を確認する。
- 1年生：1点 2年生：2点 3年生：3点 教師：5点 など 0点も入れる。
- 3 得点と人物の名前を確認し、表に書く。「○○さん、何点」
 - 4 ゲームをする。じゃんけんで先攻・後攻を決める。

- 5 交互に3枚ずつカードをめくり、名前を指導者が読み上げ、「〇〇さん、何点？」と質問しながら表から得点を探すよう指示する。
- 6 3枚ずつカードを選び終わったら、合計得点を数える。指を使って数を表すよう求めたり、指導者が数える動きに注目を促したりすることで、数え方の定着を図る。